●学内におけるボランティア活動の実践と参加のきっかけの提供

ボランティア･NPO 活動センターでは、学生スタッフが中心となり、本学学生にとってボランティアの第一歩となるような様々な活動や啓発の場を学内で提供しています、学内で日常的あるいは定期的に行えるボランティア活動や、学内において実施するイベントなどがきっかけで学生が社会での課題に気づき、ボランティアの裾野を広げることを目的としています。

企画名　タイトル	伏見区月間カレンダー
報告者名	高松　秀樹（法学部　法律学科　２年次生）
日　　時	2011年６月～12月
場　　所	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ７人

■経緯・目的

地域の中に開かれた深草キャンパスの学生と伏見区の住民を結びつけ、学生と住民とが共に地域の問題を解決していくためのきっかけ作りをしていくことを目的に活動しました。

最近、伏見区内でボランティアをしたいという学生がよく来室します。このような学生に少しでもボランティアに行きやすい環境を作りたいと考え、この企画をつくりました。

あまり伏見区に関心のない学生にも、伏見を知ってもらえるきっかけづくりの場としてこのカレンダーを活用できたらと考えています。

■概　　要

- 大学周辺地域のボランティア情報やイベント情報を掲載し、毎月更新しました。
- イベント情報が載ったカレンダーをセンター前と樹林の展示スペースに貼り出しました。
- カレンダーを見てもらいやすいように、写真や説明が書かれたポップなどで飾りつけたりしました。
- イベント情報などは、企画担当者の学生スタッフが各自で集めました。

■得られた効果

- 学生がボランティア情報を知ることで、地域のボランティアに行ってくれるようになりました。

- カレンダーを見た学生がボランティアに興味を持ってくれて、センターを訪れてくれるようになりました。
- カレンダーを見てくれる人が少しずつですが増えてきました。

■学んだこと・今後の課題

- 伏見区域のボランティアやイベントの情報をたくさん知ることができました。
- この企画を通して学生スタッフと地域の方との交流も期待していましたが、そこまで至りませんでした。
- イベントなどは、学生スタッフが行ってみて学生目線で情報が伝えられたらよかったと思います。

企画名　タイトル	リユース傘貸し出しプロジェクト
報告者名	井筒　智隆（文学部　真宗学科　３年次生）
日　　時	2011年４月１日～2012年３月31日
場　　所	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	139人

■経緯・目的

リユース傘貸し出しプロジェクト（以下、当プロジェクト）は急な雨で新しい傘を買うのはもったいないと思ったことと、傘の貸し出しをきっかけに当センターを知ってもらうことを目的として始められました。

■概　　要

★貸し出しまでの流れ★

センターに来室

→学生証を提示し、貸し出し用の傘から自分が借りる傘を選ぶ

→学生スタッフが専用の貸し出し表に日付・利用者の学籍番号と名前・貸し出す傘の個体番号を記載

→返却遅延時の連絡先を利用者に記入してもらう

→最後にスタッフが貸し出し期日を提示し、それまでに返却してもらうよう促す

★貸し出し用の傘について★

当プロジェクトで使用する傘は本学学生部に落し物として届けられた傘の中で、持ち主が現れないまま一定期間保管され、引き取りの見込みが無くなったものを学生部より提供して頂いています。これらの傘に管理担当者が個体番号を振り、貸し出し用の傘としています。

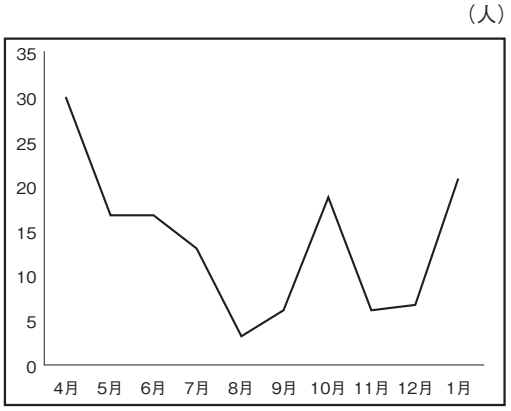
■報　　告

傘を借りに来て初めてボランティア・NPO 活動センターがどんなことをしているところなのかを知った人や、傘を借りに来たついでに一緒にボランティアも探して帰る人が今年度は少しずつですが、増えてきました。しかし、スタッフごとに貸し出しの方法､対応の仕方が異なり、貸し出しの場面でとまどっているスタッフも見られました。今後はそういったことが無いようスタッフ全体で共有していきたいです。今後もリユース傘を通しボランティア・NPO 活動センターの存在を知ってもらえるようアプローチをかけていきたいと思います。

■学んだこと、今後の課題

当プロジェクトは、一般学生へのセンターの認知に大きく関与していることが貸し出しの多さからも分かります。少しずつですが、傘と一緒にボランティアを探す人も増えてきています。今後はそういった学生に当センターでの企画への参加を促していき、多くの学生にセンターを活用していってもらいたいです。それと同時に傘だけを借りに来る学生には、少しでもボランティア、当センターの活動内容を知ってもらえるよう広報誌などで広報を行い、興味を持ってもらえるようにしていきたいです。

４月～１月の傘の貸し出しグラフ



企画名　タイトル	出張ボラセン in 大宮
報告者名	片岡　華絵（文学部　史学科　３年次生）
日　　時	2011年６月20日（月）～12月７日（水）12時15分～13時
場　　所	龍谷大学大宮キャンパス　東黌301
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	利用学生12人　　学生スタッフ16人　職員２人　計18人

■経緯・目的

- ボランティア・NPO 活動センターがない大宮キャンパスで出張ボランティア・NPO 活動センター（以下ボラセン）を行うことで、ボラセンの認知度アップを狙うとともに、多くの人がボランティア情報に触れられる機会をつくる。
- ボランティア情報コーナーを設置し、ボランティア情報や、センター情報がいつでも見られるようにする。

■概　　要

○前期：６月20日（月）２名、21日（火）１名
　　22日（水）６名　　前期計　９名
○後期：10月７日（金）１名、17日（月）０名
　　27日（木）１名
　　11月７日（月）０名、17日（木）１名
　　12月７日（水）０名　　後期計　３名
　　前後期計　12名

○ボランティアコーディネート

- 深草ボラセンから30種類弱のボランティア情報を持っていきました。
- キャンパス近郊で実施されるボランティアを中心に幅広いジャンルのボランティア情報を準備しました。
- 学生スタッフには、深草からの移動時間を考えて余裕のあるシフト編成を心がけました。
- さらに詳しくボランティア情報を知りたい学生には､深草ボラセンに来てもらい､コーディネートをしました。その際、出張ボラセンでの情報をもとにあらかじめボランティア情報を準備しておくようにしました。

○ボランティアコーナー

- 月ごとにテーマを決めてボランティア情報を掲示しました。

○広報方法

- ９月中旬から昼休みを中心にチラシの配布
- 学内にポスターを貼り、会場まで誘導
- 三角柱→大宮キャンパスに設置

■参加者の声・得られた効果など

- 大宮キャンパスの学生にセンターのことを知ってもらう機会になりました。
- 大宮キャンパスでの広報活動の前例が出来たので､チラシ設置の際の流れがわかりました。
- 大宮キャンパスに初めて来た学生スタッフに大宮キャンパスの雰囲気を知ってもらえました。

■学んだこと・今後の課題

【反省点】

- 事前にさまざまな角度から大宮キャンパスの学生について調査すべきでした。
- 大宮キャンパスでは、ボランティア紹介というより、センターの認知度アップを中心に活動すべきでした。
- 昼休みだったので、学生スタッフの確保が難しかったです。
- チラシだけだと効果が少ない。ポスターを図書館等に掲示できるようにしました。
- ボランティア情報の選定基準が曖昧だったので、選ぶ際に苦労しました。
- ボランティアコーナーを多くの人の目の付く場所に変更すべきでした。

【今後について】

- センターがどんなところかわかるような資料を作成し、大宮キャンパスに設置します。

・ボラゴンや学生企画をした際の広報活動を大宮キャンパスでも行います。
・学生数が少ないため、顔見知りが多くいる確率が高いので、口コミ等大宮キャンパスならではの広報方法を模索します。

企画名　タイトル	広報誌「ボラゴン」（深草）
報告者名	篠原　成生（経営学部　経営学科　２年次生）
日　　時	2011年５月20日～2011年12月25日
場　　所	学内で手配り、ボランティア・NPO 活動センター（深草）、３・４号館地下食堂に配架
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	製作：５人

■経緯・目的

学生にセンターのことを周知し、来客者を増やし、少しでもボランティアに興味のある学生が、ボランティアに行ってみたいと感じてもらえることを目的としています。

■概　　要

センターについて、興味を抱いていただけるような広報誌を春夏秋冬の４号発刊しました。

今回、秋号より学生スタッフについて知ってもらい、センターに入室しやすくなることを目的として､学生スタッフの日常生活をつぶやく､ボランティアと twitter をかけた volutter（ボラッター）というコーナーを作りました。

★春号（A ５サイズ）

テーマ『新入生にボランティア・NPO 活動センターについて知ってもらう』

・What's ボラセン
・新スタッフ募集記事
・センター活用術

★夏号（A ５サイズ）

テーマ『ボランティア・NPO 活動センターに来てもらうにはどのようにすればよいか』

・What's ボラセン
・報告　ボランティア入門講座
・特集記事　ボラセンに来る人はどんな人
・センター活用術

★秋号（A ５サイズ）

テーマ『学生スタッフはどのような人』

・What's ボラセン
・ボラセン秋のまちまつり
・東日本大震災復興支援ボランティア報告・展示会 「絆～共に考える東日本大震災」～（学生スタッフ企画紹介）
・学生スタッフ実態調査！！　～コーディネート＆企画～
・第１回 volutter

★冬号（A ５サイズ）テーマ『龍谷祭報告』

・What's ボラセン
・第２回 volutter
・絆～共に考える東日本大震災～
・～龍谷大学の震災復興への歩み～
・センター活用術

■参加者の声・得られた効果など

今回、特に力を入れたのは、いかにして読み手にセンターの存在を知ってもらい、センターのドアを開けてもらうかということを考え、記事を作成してきました。夏号の特集記事を作成するに当たり、来室者にアンケートを取らせてもらった結果、センターの持つイメージは『堅苦しい』という意見が大半でした。

■学んだこと・今後の課題

読んでもらう学生の気持ちを常に考え、読みやすく、わかりやすい広報誌作りが必要だと感じました。

そのためにも、今度は学生より意見を集め、その意見を反映させていく体制が必要だと思います。

また、volutter を始め、学生スタッフのことを知ってもらい、センターの持つ『堅苦しい』というイメージを払拭させ、一人でも多くの人にセンターに来てもらえる記事を今後とも作成していきたいと思います。

企画名　タイトル	「茶道部　東日本大震災のチャリティーお茶会」の支援
報告者名	井筒　智隆（文学部　真宗学科　３年次生）
日　　時	2011年４月28日（木）11時30分～17時
場　　所	龍谷大学深草キャンパス　顕真館前石畳
実施主体	お茶会主催：学術文化局茶道部釣寂会、協力：ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	141人

■経緯・目的

茶道部から東日本大震災の復興チャリティーお茶会をしたいという相談を受け、センター内で協議の上、支援という形で茶道部のお茶会をお手伝いすることになりました。

■概　　要

顕真館前の石畳でお茶席を用意し、席料として200円いただき、お茶とお菓子を出しました。この席料とした頂いた義捐金は全て寄付金として日本赤十字社へ寄付され、その結果、総額49,993円（募金などもあったので、金額に端数が発生）の義捐金が集まりました。

ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフは、チラシなどを配布する広報活動や当日の受付をお手伝いしました。

■参加者の声・得られた効果など

茶道部からチャリティーお茶会実施の相談を受けセンター内での協議の結果、お茶会をお手伝いすることになったのですが、今まで、あまりサークルと連携して何かイベントなどを行うことがなく、初めての試みとなりました。

今回のこの試みによって、他サークルにボランティア・NPO 活動センターと協力してイベントなどを行えることを広報できたのではないかと思います。今後もサークルとの関わりを大切にしていきたいです。

■学んだこと・今後の課題

各サークルなどが今回の大震災のことで自ら進んでいろいろな復興イベントなどをしており、学生一人ひとりの意識の高さを感じました。今後もサークルからこのような相談があれば、積極的にこちらもお手伝いできるようにしていきたいと思います。

今回学生スタッフ全体にこの企画のことを上手く伝えられず、チラシ配布などの広報活動が上手く進まないのではないかと思っていました

が、予想以上の数の学生スタッフが手伝ってくれたこともあり、広く広報活動ができたのではないかと思っています。

今後の課題として、伝達が上手くいかなかった部分をどう改善していけるか考えていきたいです。

企画名　タイトル	絆　～共に考える東日本大震災～
報告者名	池内　亮太（法学部　法律学科　３年次生）
日　　時	2011年11月４～６日（金～日）10時～17時
場　　所	深草学舎21号館401教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（深草）
参加人数	112人（展示会　103人・報告会　９人）

■経緯・目的

龍谷祭は、多くの学生や地域の人がたくさん参加されるので、この機会に東日本大震災について伝えたり、共に考えたりしようと思いました。被災地へボランティアに行った学生は、行ったからこそ知ったことや伝えたい思いがあります。東日本大震災について、「自分たちに何ができるのかを考え、被害の状況などを伝えること」と「学生の何かしたいという思いを繋げること」を目的に決めました。

■概　　要

【報告会】　11月５日（土）

〔第一部〕

13：00　受付
13：30　開始（挨拶や配布資料の確認など行う）
13：35　東日本大震災発生後、復興に向けての龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフが関わった取り組みについて報告
13：50　東日本大震災復興支援ボランティア第１～３回に参加した学生の報告
14：30　質疑応答
14：40　休憩

〔第二部〕グループディスカッション

14：50　クロスロードについて説明
15：00　グループ内で自己紹介やルールの再確認後、クロスロード実施
15：30　「もし災害が起きたら、あなたはどのような行動をとりますか？」
15：50　挨拶、アンケート記入
16：00　参加者と集合写真を撮影、終了

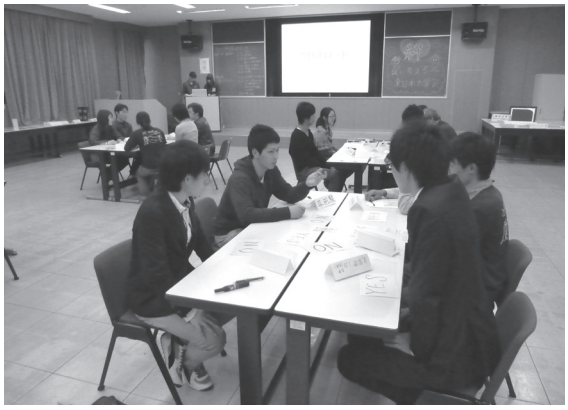
【展示会】　11月４～６日

《活動報告》

- 東日本大震災復興支援ボランティア第１～３回に行った宮城県の紹介や被害状況、復興支援ボランティア活動報告、関西でできる復興支援についてなどの展示

《関西でできる復興支援についての情報提供》

- 物産展（ex 11月26日、27日では伏見区にある、京都市総合見本市会館［パルスプラザ］で行われるイベント『農林水産フェスティバル2011（入場無料）』）
- 関西でのボランティア活動の紹介（ex 京都市ユースサービス協会の震災で避難してきている小中高生への学習支援）
- その他企業ごとが行っているボランティア（ex ダイエーでは、毎月11日から１週間、ダイエー「東日本大震災」被災地復興支援企画“がんばろう 日本！”としてダイエープライベートブランド『おいしくたべたい！』の売上金の一部（１％）を寄付しています。）
- チャリティグッズの紹介（ex 楽天、Amazon）



《模擬店》

・この企画の東北支援の１つの方法として取り組みます。売上から必要経費を差し引いた利益を瀬田と合同で寄付しました。送付先は、石巻復興支援ネットワークです。
石巻復興支援ネットワークとつながりがあるWMI（We Make Ishinomaki）が作っておられるミサンガを提供して頂けるので、深草・瀬田各キャンパス100ずつ用意し、模擬店で商品を購入された方に、ミサンガを差し上げました。このミサンガは、東日本大震災の復興支援に共に取り組んだ証とし、またそのミサンガを見ることによって、東日本大震災を思い出したり、自分が行った活動を振り返ることが出来ると思っています。
〔商品〕豆腐ドーナツ
〔寄付の使途〕仮設団地のコミュニティ促進のイベント時の材料費

■参加者の声・得られた効果など

【展示会】

・テレビで見て、被害の大きさはわかっていたつもりですが、写真を見て、「そんなものではないのだなぁ」と涙が出ました。「自分に出来ることから」と私自身も行っていかないとなあと思えました。
・活動内容の写真を使って展示されていてとてもよかったです。今年は特に東日本大震災が発生して、ボランティアセンターの重要性がさらに高まったと思います。来年もさらに活動をぜひ継続していただきたいです。
・これからも寒い時期になりますが、ボランティア活動頑張ってください。震災もですが、紀伊半島の台風被害やタイの大洪水のことも忘れないでください。
・東日本大震災の被害や、ボランティア活動だけでな、宮城県の紹介や旅行パンフレットまで置いてあるのがよかった。数年後に復興したら、ぜひ東北に旅行したい気持ちになった。他にも「関西で出来る復興支援」が、何をすればよいのかが具体的に書かれてあったので勉強になった。ただ、もう少し被害の様子が分かるような写真を見たかった。
・文字情報が少し多かったです。
・同じ写真が多い。重複しているようです。

【報告会】

・参加者が少なかったのが残念。お友達広報もっと力入れる必要がありましたね。報告は、それぞれの視点で発表されており、素直な感想がよかったです。
・消防署の方から貴重な話を聞くことができたので、有意義な時間でした。活動報告も非常に興味深く、学生が何を考えて震災復興支援ボランティアをしているのかよくわかりました。
・学生の皆さんが真剣に考えていることがよくわかりました。今後もほかの学生さんに意識の輪を広げてほしいと思います。

【模擬店】

深草キャンパス分
募金総額　47,224円

瀬田と深草の募金を一緒にして、団体が指定する方法で送り届けます。

■学んだこと・今後の課題

【展示会・報告会】

・報告会に学生の参加者が少なかった。
・震災をテーマにしていたので、もっと地域の団体と協力できたらよかった。
・学生と地域の関わり方を考えなければならない。
・学外への広報を企画メンバー全員で協力できれば良かった。
・去年の龍谷祭は災害ボランティアについて、社会福祉協議会と協力して行っていたが、そのつながりがあったのに生かせず、自分たちだけで行ってしまった。
・報告会は別の日にしても良かったのではないかと思いました。

【模擬店】
- 豆腐ドーナツの大きさの統一ができてなかった。
- 材料を買いに走ることがあり、もっと買っておけばよかった。
- 人数がもっと欲しかった。模擬店以外の学生スタッフにもっと協力をお願いしたほうがよかった。
- もっと効率よく回せた。
- リピーターがいた。
- お土産に持って帰るという人も多かった。
- 募金してくれる人もいた。募金箱を置いてもよかった。
- 今後としては、龍谷祭に限らず、いろんなイベントに出店することで東北支援を続けていきたいです。

企画名　タイトル	Re-キャッププロジェクト
報告者名	栗原　啓拓（社会学部　社会学科　２年次生）
日　　時	2011年４月１日（木）～2012年３月15日（木）※現在も継続中
場　　所	瀬田キャンパス
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
参加人数	36人

■経緯・目的

昨年度に引き続き、学内のペットボトルキャップ分別専用のゴミ箱を通して、学生の環境意識を高める活動に取り組みました。また回収したキャップは、むつみ園（障害福祉サービス事業所）に引渡し、障がい者の自立支援にも繋げています。

■概　　要

○通年の取り組み

①清掃員さんが回収したキャップを、コーディネートシフトに入っている学生スタッフがキャンパス内のゴミ集積所から回収。

②キャップを水に浸して洗浄。

③次のシフトの学生が水から引き上げ、布に広げて乾燥。

④乾いたキャップをまとめてビニール袋に入れて保管。

⑤むつみ園さんへ引き渡し。

○広報活動

前年度、広報活動に力を入れられなかったという反省点から、今年度は７月後半から、『eco week』と題したRe-キャッププロジェクトの強化週間を設けて実施しました。内容は以下の通りです。

ポスター、立て看板の作成

リサイクルの促進とRe-キャップの活動を知らせる目的で学内の８か所にポスターを、智光館前に立て看板を掲示しました。

分別の呼びかけ

７月21日と25日に学内で拡声器を使い、Re-キャッププロジェクトの広報と分別の協力を呼び掛けました。

■参加者の声・得られた効果など

○回収されたキャップの総数

日時	回収量	日時	回収量
2011年４月	9.5kg	10月	13.4kg
５月	2.0kg	11月	11.5kg
６月	5.6kg	12月	5.0kg
７月	20.0kg	2012年１・２月	20.5kg
８月	5.6kg	３月	9.45kg
９月	2.5kg	合　　計	116.45kg

※キャップは全てむつみ園へ引き渡しました。

○ eco week に参加した学生スタッフの感想
「呼びかけをする前はあまり相手にしてもらえないのではと思っていたが、実際は足を止めてくれる人がいてよかった」、「興味を持っている人がいたのでこれからも継続していくとよいと思う」という声がありました。

■学んだこと・今後の課題
2009年度は144kg、2010年度は134kg、今年度は116.45kgと、年々キャップの回収量が減っており、少しずつですが学内でのペットボトル消費量が減ってきていると感じています。
今年度は昨年度に課題としていた広報の部分で新しい試みをいくつか実践できましたが、その効果を検証するためには、明確なデータが出るような調査が必要だと考えています。
来年度は、キャップ回収量の推移などをポスターで広報することも検討し、ペットボトルに関する意識啓発に繋げていきたいと思っています。

企画名　タイトル	瀬田広報誌「Volunteer News」
報告者名	西牟禮　智美（社会学部　地域福祉学科　２年次生）
配布期間	2011年４月２日（土）～2012年12月22日（木）
場　　所	瀬田キャンパス内
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）広報班広報誌係
参加人数	制作：瀬田学生スタッフ８人

■経緯・目的
ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）の学内での認知度向上のため、また、より利用しやすいセンターにするため、学生スタッフの目線ならではの広報誌を制作しました。
センターの活動や企画を掲載することで、本学学生にセンターのことを知ってもらうきっかけにすることや、１人でも多くの人にボランティアに興味を持ってもらうことを目的としています。

■概　　要
○内容
４月号（約800部発行）
・センター紹介
・学生スタッフとは
・2010年度活動紹介
・ボランティア相談 Q&A
６月号（710部発行）
・センター紹介
・Re- キャッププロジェクト紹介
・丸屋町夜市ボランティア募集・昨年度の活動内容
10月号（690部発行）
・センター紹介
・丸屋町夜市ボランティアの報告・感想
・龍谷祭展示・模擬店の宣伝
・GWT（グローバルなワークでワックワク～震災から多文化共生を Thinking）の宣伝
12月号（510部発行）
・センター紹介
・くさつ子どもフェスタ2012ボランティア募集
・丸屋町商店街宵宮ボランティア報告
・大津祭ボランティア報告
・龍谷祭展示・模擬店報告

○設置場所、配布について
・ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
・学友会パンフレットスタンド
・学生スタッフの手配りで配布

■参加者の声・得られた効果など
定期的な広報誌の発行によって、センターへの来客者数の増加に貢献することが出来ました。また､各企画の宣伝を広報誌によって行い、参加者の増加にもつなげることが出来ました。数多くの学生に広報誌を手渡すことができたので、少しでもセンターの知名度が上がったように思われます。

■学んだこと・今後の課題
広報誌も２年目に入り、より多くの学生に手

にとってもらえるように、表紙を工夫したり、学友会パンフレットスタンドに置く分は、表紙に色を塗って目につきやすいようにしたり、センターの掲示板に広報誌の拡大版を掲示したりして、新しい取り組みを始めました。作成にあたり、係のメンバーだけでは負担が増えたので、他の学生スタッフに依頼したりして、スムーズに活動が進むように努めました。

配布に関しては、昼休みに係以外の学生スタッフにも協力を呼びかけましたが、なかなか人数が集まらず、配布予定の部数を配りきれなかったことがよくありました。これからはシフト制を導入し、ある程度の配布人数を確保して、より多くの学生に手に取ってもらえるようにしたいと思います。

また、内容のマンネリ化も課題なので、係の中だけで内容を決めるのではなく、学生スタッフ全員の意見を聞いて、よりセンターの認知度が上がるような広報誌に出来ればと思います。

企画名　タイトル	忘れやんとこ！ 3.11 ～わたしたちにも出来ることはあるんやで！～
報告者名	岸本　慧（理工学部　環境ソリューション工学科　１年次生）
日　　時	2011年10月29日（土）11時～15時（模擬店は10時30分～16時） 10月30日（日）11時～16時（模擬店は10時30分～16時）
場　　所	瀬田キャンパス３号館204教室（展示）／図書館前（模擬店）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
来場者数	展示185人／模擬店370人

■経緯・目的

東日本大震災が起きてから、募金活動、物産展、復興支援ボランティアなど、センターとして様々な活動を行ってきました。しかし、時が経つにつれて私たち自身の震災に対する意識が薄くなっていると感じ、龍谷祭で震災に関する展示を行うことで、もう一度目を向けてもらい、継続して支援することの重要性を伝えたいと思いました。また、募金や模擬店の利益を寄付することは「何かしたい」という人々の復興支援活動のきっかけになると考えました。

■概　　要

＜展示＞

○模造紙および写真の展示

センターの概要／東日本大震災発生以降の龍谷大学における支援活動／各支援活動の写真／瀬田キャンパスの学生の支援活動／各地で行われた復興支援のさまざまなボランティア活動に関する新聞記事

○閲覧コーナー

○相談ブース

○募金（集まった金額　4,520円）

＜模擬店＞

凍天（しみてん）の調理・販売。

価格：１本150円　利益：37,452円

※展示の募金箱と模擬店利益は、復興支援ボランティア活動先『石巻復興支援ネットワーク』へ寄付。

■参加者の声・得られた効果など

たくさんの人が展示・模擬店ともに来て下さり、もう一度東日本大震災に目を向けてもらえたと感じられました。また、龍谷大学のこれまで行ってきた支援を見てもうことで継続的な支援の重要性を発信できたと思います。

また、展示の募金箱と模擬店利益の合計額は41,772円となり、深草キャンパス龍谷祭のセンター模擬店利益と共に、12月８日に京都市内においてお渡ししました。

そして、展示を見に来ていただいた方に対してアンケートを取った結果、以下の感想がありました。

- 学内の活動は意外と知らなかったので、参考になった。
- 現場に行った内容を載せていたので、良かった。
- ボラセンの活動だけでなく、他の団体の紹介もあって良かった。
- 展示以外にも工夫があれば良かった。
- 文字が小さすぎるポスターが一部あり、読みにくかった。
- もっと多くの人に見てもらえるようにポスター等での教室の案内があれば、もっと良かった。
- 写真の大きさにメリハリが無い為、展示に迫力が感じられない。
- 日常の生活の中にも身近に感じられること等、様々な人達にも啓発をお願いします。

以上の様に、良い面も悪い面も含まれている今回のアンケート結果を、今後の活動に活かしていきたいと思います。

■学んだこと・今後の課題

今年度の龍谷祭の展示・模擬店での活動を通して、企画メンバー間で認識のすれ違いを起こさない為に、意識や各自が担当しているパートの進行状況の情報等を共有する事の必要性を学びました。また、初日はその他の学生スタッフにして欲しい事を上手く伝えられず、手持ち無沙汰になっている学生スタッフがいる場面があったので、企画メンバーは上手く学生スタッフをまとめ、指示することが必要であることがわかりました。さらに、企画メンバー人数が５

人と少なく、１人にかかる負担が大きかったので、来年度は中心メンバーの人数を増やす方向で考えていきたいです。

今後の課題としては、前述の通り来年度の企画メンバーの確保・当日の学生スタッフへの対応があります。また､初日に展示会場において、実際に被災地で活動した学生の体験談を聞く時間帯を設けていましたが、広報不足により開始直後は参加者が少ないといった事態も起きたので、広報手段の強化も考える必要があると感じました。そして、アンケート結果でよく見られた「展示の教室が分からない」といった学生ではない一般来場者に対する配慮も足りなかったと思われるので、来年度は広い視野を持って企画に挑みたいと思います。

企画名　タイトル	Let's ボランティア ～ボランティア紹介します～
報告者名	藤田　華保（社会学部　臨床福祉学科　３年次生）
	岡田　太貴（理工学部　環境ソリューション工学科　２年次生）
日　　時	前期：2011年６月20日（月）～６月24日（金）　12時15分～13時45分 2011年７月４日（月）～７月５日（火）　12時15分～13時45分 後期：2011年11月21日～11月25日（23日は祝日のため実施せず）、 21・25日／12：20～15：05（昼休み＋３限）、 22・24日／11：05～13：30（２限＋昼休み）
場　所	前期：瀬田キャンパス　野外ステージ前
	後期：瀬田キャンパス　生協 SMILE ショップ前
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター（瀬田）
来場者数	前期：本学学生約20人／後期：本学学生約10人

■経緯・目的

瀬田キャンパスのボランティア・NPO 活動センターは、構内の端に位置することから、学生がセンターに足を運びにくいという課題があります。それを解決する為に、センターの外に出てボランティアの紹介を行い、センターの認知度の向上、センターに入りやすいきっかけづくり、またボランティア活動の普及につなげることを目的とし、この企画を実施しています。

４回目となった前期では、準備時間や後片付けの時間の短縮、シフトに入る人数の調整、見てもらいやすいチラシの置き方をするよう心がけました。５回目となった後期では、前回までの経験や学生スタッフ全体の反省点を活かし、活動場所の変更やシフトに入る学生スタッフ個々の役割分担、チラシを見てもらいやすいように三角柱を置くなど工夫をしてみました。

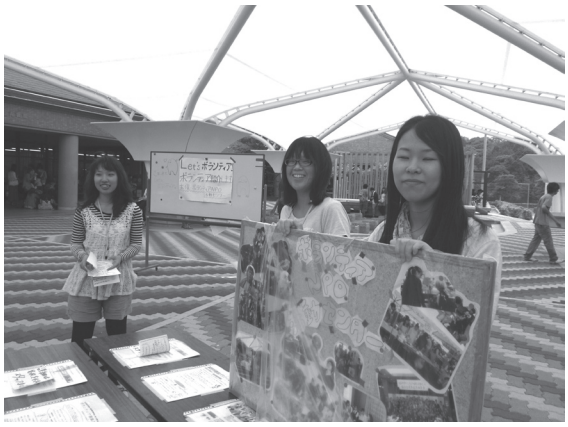
■概　　要

【前期】

場　　所　野外ステージ前にブースを設け、学生がボランティアのチラシを自由に取れるようにしたブースに加え、夜市・大津祭の宣伝用ブースも設けました。

実施時間　野外ステージ付近の人通りが最も多くなる昼休みと、その前後あわせて１時間半行いました。

設置物など　本企画メンバー（広報班 Let's ボランティア係）が、ボランティア保険に加入している福祉・環境・国際の分野のチラシを全部で11種類選び、学生スタッフのコーディネートに役立てるよう詳細情報のシートと共にファイルしました。



人員体制　学生スタッフに協力を求め、ブースに配置する人を前半（12時15分～13時５分）と後半（13時５分～13時45分）に分け、シフト制にしました。シフト内ではボラセン T シャツを着用することとし、来場者の対応を行う人とチラシ配りをする人とに分かれてもらいました。

【後期】

場　　所　生協 SMILE ショップ前にテントを立ててブースを設けることで、正門付近を行き来する学生の目につき、よりボランティアやボラセンを身近に感じてもらうことを目指しました。

実施時間　学生スタッフに事前のアンケートを取り、昼休みを中心にして授業時間帯も行いました。

設置物など　企画メンバーが福祉・環境・国際の分野のボランティア募集チラシを各２種類ずつ、計６種類を選び、ブースに設置しました。チラシはボランティア保険に加入しているものを選ぶようにし、チラシごとにおススメを

書いた三角柱を置きました。また、ボラセンのボランティア体験企画『くさつ子どもフェスタ2012』（P.54）とも連動して紹介しました。

人員体制　ブース配置人数は、企画メンバーを極力各シフトに１人は組み込んだ編成にしました。また、前回の反省点から、当日の役割を人通りが多い昼休みの場合のみ、チラシを配る人・メガホンで呼び込む人・テント内で説明する人に２人ずつ分かれて動いてもらうようにしました。シフトに入った学生スタッフには、センターのウィンドブレーカーを着用してもらいました。

■参加者の声・得られた効果など

【前期】

一般学生にセンターを知ってもらう良い機会になり、実際にセンターまで来てくれた学生もいました。また、全部で７日実施し、机の並び方を変えたりして色々なスタイルを試せたので、一般学生がボランティアのチラシを取りやすくすることができたと感じています。

来場者にメールマガジン登録をしてもらい、今後にもつなげられたと思います。

【後期】

実施後に学生スタッフに向けてアンケートをとり、以下のような意見がありました。

- 行き交う学生に対して、学生スタッフの方からもっと積極的に声をかけて誘導すべき
- もっと派手にして、学生が興味をそそるような装飾にしては？
- パーテーションを借りて、企画の紹介・写真の展示などを行う
- ボラセンから場所が遠いと、準備や片づけが大変
- 分野の枠を越えた、一般学生のボランティアのニーズに応えられるようなチラシを選んでは？
- 学生スタッフの意識向上が必要

■学んだこと・今後の課題

【前期】

今回、夜市（P.50）や大津祭（P.53）といった他の企画と合同で行いましたが、他の企画と合同で実施する際の課題も見つかったので、今後は連携をうまくとっていきたいです。事前の広報も不十分だったので、次回からは力を入れていきたいです。

Ｔシャツを着用したり、大きな声を出すことで一般学生の目を引くことができることがわかった一方で、シフトに入った学生スタッフから､チラシ配りの人の配置や人数について｢もっと多い方がいいのでは？｣｢配る場所を決めたらどうか｣等の意見もらいました。活動の振り返りをしっかりして、継続していくことの大切さを学んだので、今後は企画メンバーだけで話し合うのではなく、他の学生スタッフの意見も取り入れていきたいです。

【後期】

チラシ配りで受け取ってくれる学生の数が、食堂のときと比べて多かったり、実際にボラセンのことについて聞いてくれた学生もいました。また、全部で４日実施したので、机の並び方を変えたりして、いろいろなスタイルを試してみました。

協力してくれた学生スタッフの意見から、何を目指して学内でこの活動をしていくのかという根本的な問題に立ち返り、これからも反省点を取り上げながら、新しい挑戦もしつつ、より良いものにできたらと思います。

企画名　タイトル	グローバルなワークでワックワク！～震災から多文化共生を Thinking～
報告者名	吉田　裕貴（国際文化学部　国際文化学科　２年次生）
日　　時	2011年12月16日（金）17時30分～19時30分
場　　所	瀬田キャンパス学生交流会館カンファレンスルーム
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	13人（うち、学生スタッフ７人）

■経緯・目的

私は日ごろから留学生が孤立している姿を見たり、外国籍の方に対する偏見を聞いたりします。また外国籍の方に対して苦手意識を持っている学生も私の周りにはたくさんいます。私はこれらのことに疑問を持っており、みんなで１度考える機会を作りたいと思っていました。

そんな中、３月11日に東日本大震災が起こり、たくさんの外国籍の方も被災されました。しかし報道でもとりあげられることも少なく、たくさんの問題を抱えていると思われます。また、近いうちに関西でも震災が起こると言われています。今回のタイミングでこれらの内容と、更に震災について考える機会が必要だと思い、『震災ワークから多文化共生・異文化理解を知ってもらう。』という目的を基に以下をねらいとしてあげています。

- 被災した外国籍の方の立場に立ち、その心情を理解してもらう。
- 地域に外国籍の方が多いことを知ってもらう。
- 助けあえる仲間になる。（共生）

■概　　要

1．ワークショップ「言葉がわからない」体験ゲーム何が起こった？（震災編）
2．パワーポイントから多文化共生を Thinking ！
   - 東日本大震災の発生について
   - もしも関西で、滋賀県で地震が発生したらどうする？
3．ボランティア紹介

■参加者の声・得られた効果など

- もし自分が外国で災害に遭ったら、どのような状況に陥るのかリアルに想像することができた。今回の東日本大震災では、実際にこのような恐怖を味わっておられたと思うと人とのつながりは本当に大切だと思った。
- ワークショップでは本当に言語が分からなくて不安で焦る気持ちを理解出来た。外国籍の方の気持ちを考える良い機会になった。
- 外国籍の立場になって災害時のことを考えたことがなかったのですが、本当に考えなくちゃいけないな、と思いました。日本人の倍、怖い思いや不安な思いをすると思うし、災害になってからでは遅いです。外国の方がいはる地域の自治体とかは進んで取り組みを行っていくべきだと思います。

■学んだこと・今後の課題

今回の企画では参加者の募集に苦労しました。多様な方法で広報を行いましたがあまり効果は得られませんでした。ある程度予想はできていましたが、やはりボランティアという実態をともなっていないワークショップの集客は難しいと感じました。いかに広報を展開するかは今後考えていかないといけない課題だと思います。また、当日までのスケジューリングがうまく組めていなかったため、直前まで内容が固まりませんでした。効率的なスケジューリングの作成も今後の課題です。

ただ、最後におこなったボランティア紹介では実際に企画メンバーと一緒に参加するという形をとったので、日の合わなかった参加者もいましたが、興味を持ってもらうことができました。このような形でのボランティア紹介は非常

に効果的だと学びました。また、ワーク中に非常食を試食する時間をとりました。普段の生活の中では、あまり口にする機会のない非常食を実際に試食することで、身近に感じてもらうことができました。参加者の中にはおいしいという声もたくさん聞こえ、非常食に興味を持ってもらえたと思います。

企画名　タイトル		サークル登録制度（サークル＆ボランティア活動　情報交換会）	
報告者名		西島　有恒（瀬田キャンパス　コーディネーター）	
サークル情報交換会	キャンパス	深草キャンパス	瀬田キャンパス
	実施日時	2011年５月９日（木）　７月26日（木） 11月24日（木） 2012年１月19日（木） いずれも12時30分～13時00分	2011年５月９日（木）　７月26日（木） 11月24日（木） 2012年１月19日（木） いずれも12時50分～13時20分
	場　　所	１号館104教室	ボランティア・NPO 活動センター
	参加人数	延べ20団体　37人	延べ14団体　20人
登録団体		学友会学術文化局ボランティアサークル 京炎そでふれ！輪舞曲 学友会学術文化局交響楽団 手話サークル ジャズ研究会	マジック＆ジャグリングサークル　Mist そでふれよさこいサークル　華舞龍 瀬田 BBS 会 社会福祉研究会（S.W.A.P） 音×音（ネオン）
		計５団体	計５団体
実施主体		ボランティア・NPO 活動センター	
参加人数		サークル情報交換会：深草、瀬田	

■経緯・目的

学内のサークルを育て、ボランティア活動への促進を目的とし､学内サークルとの連携強化、学内でのセンターの認知度向上などを目指しています。

■概　　要

・サークル登録制度

地域からの「サークルを紹介してほしい」などの依頼に対応するため、学内のサークル（宗教局、放送局、学術文化局、体育局、各種委員会や一般同好会）のうち希望するサークルが登録を行っています。※ボランティア活動以外のサークルも登録対象。

・サークル情報交換会

定期的に実施し、サークル同士のネットワークづくりやサークルの活動に役立つ情報提供を行っています。

具体的にはセンターの活動紹介、サークルの活動紹介、助成金などの情報提供、サークルの特技を活かした地域でのボランティア活動などの説明を行い、新規登録サークルの呼びかけも行いました。

■参加者の声・得られた効果など

情報交換会では、「地域での活動を紹介してほしい」､「助成金に応募して今後の活動に活かしたい」などの声があり、地域からの出演依頼などの調整や助成金の情報提供を行いました。

今年度、センターで紹介した助成金事業で、財団法人学生サポートセンター「平成23年度学

生ボランティア団体助成」の助成団体に社会福祉研究会～S.W.A.P～が採択されました。

■コーディネーター所感

今年度も登録サークルが、地域でのボランティア活動で活躍しました。サークルを紹介した地域団体から、「次もぜひサークルに来てほしい」などの声をいただきました。

今年度は登録サークルが助成金の助成団体に採択されるなど、登録サークルの活動を育てるということにつながったと思います。

課題としては、一度登録したサークルが継続して登録となっていなかったり、登録を案内しても未登録となっているサークルがあったりという状況があるため、これらのサークルを登録につなげ、サークルのボランティア活動促進を行いたいと思います。